



# たより

平成21年4月20日  
掬水まちづくり協議会  
NO. 3 1

本号は2枚の構成になっています。

## 第四回協議会総会が 開催されました！

また、松阪市長山中光茂様のご出席をいただき、総会に華をそえていただきました。

会長	久瀬 幸	
副会長	北岡 巖	
	中西義彦	
	今井順子	
会計	森田義子	
書記	高田正和	
広報	三宅忠行	
運営委員長	森坂享司	
副運営委員長	高田勇孝	
顧問	原田俊夫	
自治会長	山添町	松村三夫
	安楽町	大滝 勇
	山下町	堀田国嗣
	伊賀町	山本昌彦
	みどり苑	高田勇孝
	豊原町	久瀬 幸
	櫛田町	早川隆史
	清水町	北岡 巖
会計監査	菅生町	太田洋一
	山添町	有滝弘一
	豊原町	加藤正之

### 平成二十一年度掬水まちづくり協議会本部役員

日時 四月十二日(日)  
午後一時三十分  
場所 JA松阪本店三階にて

本年度の本部役員を右の表に示しました。

当日は、初夏を思わせるような大変暖かい日になりました。大変お忙しい中、沢山の方々に参加していただき、誠にありがとうございました。昨年同様、豊原町の西田幸代さんの司会で始まりまして。

また、今回のたよりでは、紙面に限りがありますので、総会

の主要な部分の概要について報告させていただきます。表がいくつもあり、字が、小さくなり申し訳ございません。質疑だけのやり取りだけでは、分かりにくいと思ひ、表の掲載をさせて

いただきました。まず、久瀬会長のあいさつの趣旨を載せます。

私たちは、三年前に、地域の人々をつなげ、元気にしようといろんな楽しい行事を催し、地

域の人に集まっていたく機会を作りました。掬水まちづくり協議会を立ち上げ、協議会のテーマ「皆が元気で仲良く楽しいまちづくり」を掲げました。お陰さまで、昨年の夏祭りでは、

担当部局	主な事業	事業内容
1 地域振興部	たよりの発行	年間発行回数14回。全世界に配布。地域の人たちに協議会活動等について広報し、協議会の理解に大きく貢献している。
	意識調査の実施	12月に住民意識調査を実施。まちづくり協議会に対する住民意識を集約した。
	夏まつり	実施日(8月2日) 参加人数(約800名) 花火の打ち上げ、シャトルバスの運行、小学生のしよんが踊り等、新しい取り組みをした。
2 公民館活動部	キッズふれあい	実施日(7月28日・31日) 参加者36名 楽しくクッキング 実施日(8月7日・8日) 参加者22名 パソコンでマイバックを作ろう。 実施日(12月20日) 参加者27名 ハニーキャンドルを作ろう。 公民館との共催で開催した。
	スポーツ大会	実施日(6月15日) グランドゴルフ大会 参加者 97名 3世代間交流 実施日(9月14日) 親子球技大会 参加者 92名 地区別対抗でソフトバレー 親子で楽しくスポーツ大会を開いた
	ふれあいウォーキング	実施日(1月25日) 参加人数(約150名) 安楽天神・運動公園の開発状況・山添町神山神社折返し、日頃歩いたことのない田園風景の中を楽しんだ。
3 老人会活動部	芸能発表会	芸能発表会(6月8日) 文化祭作品展示(11月8日~9日) 日頃の勉強・練習の成果を発表でき好評であった。
	子どもとのふれあい	保育園・幼稚園・小学生と昔の遊び体験、縄ない体験等子どもとの交流をはかった。
	社会奉仕の日	各支部ごとに公共施設、神社、仏閣の清掃作業をした。
4 保健福祉部	スポーツ大会	体力の向上や親睦をはかり、他地区との親善交流試合にも参加した。
	さつまいもの苗植えと収穫祭	実施日(5月31日と10月18日) 参加人数(170名) 多くの子どもたちも参加して収穫を楽しんだ。
	豆腐づくり	実施日(3月14日) 参加人数(19名) 調理を通して地域の人との交流を図った。
5 安全防災部	防災訓練	実施日(11月16日) 参加人数(約200名) 雨の中、各自治会の自主防災隊を中心に消火訓練、バケツリレー等7項目の訓練を実施した。今回は新たに普通救命講習会を実施し、32名が修了証を受けた。
	地域の防犯パトロール	毎月10回 参加人数(50名) 発足3年を迎え地域に支持され事業として根付いた。また、地域の安全安心に大きく貢献している。
6 青少年育成環境部	あいさつ運動	今後とも一層の工夫をして地道に取り組んでいく必要がある。
	花の苗植え	実施日(11月27日) 小学生30名と共にプランターにパンジーの苗を植え自治会等に配った。
7 産業振興部	櫛田川クリーン作戦	実施日(11月24日) 参加人数(約400名) 場所(櫛田橋上流堤防) 櫛田川のゴミ回収ができ、環境対策に貢献した。他の部会の協力により、盛大な取り組みになり好評であった。
8 プロジェクト	高齢者・環境問題への取組	高齢者問題では、「福祉・防災カルテ」と「対象者のマップ」を作成した。今後は、対象者に対する見守り者をきめていく。環境問題では、「できるところから運動」のシールを作成し地域の全家庭に配布。玄関等の外から見える所に貼って、目的に対する意識の向上を図った。

平成20年度 掬水まちづくり協議会決算報告書

収入の部				支出の部			
項目	予算額	決算額	差引額	項目	予算額	決算額	差引額
前年度繰越金	378,218	378,218	0	地域振興部	790,000	778,129	-11,871
松阪市交付金	857,000	857,000	0	公民館活動部	180,000	118,013	-61,987
自治連合会補助金	650,000	650,000	0	老人会活動部	30,000	25,180	-4,820
預金利息		498	498	保健福祉部	30,000	7,835	-22,165
委託金		287,000	287,000	安全防災部	170,000	149,360	-20,640
その他収入		9,900	9,900	青少年育成環境部	150,000	44,980	-105,020
				産業振興部	50,000	49,375	-625
				事務費	340,000	237,100	-102,900
				予備費	145,218	144,900	-318
				次年度繰越		627,744	627,744
合計	1,885,218	2,182,616	297,398	合計	1,885,218	2,182,616	297,398

子どもからお年寄りまで多くの人が集まって楽しみました。そして、夜店や踊りを通して、今まで話をしたことのない人が、集まり、いろんな話をし、楽しんでいただきました。

この他、夏祭りのような集う機会を、榎田川クリーン作戦、ふれあいウォーキングなど多く増やし、昨年から高齢者問題、環境問題にも取り組みました。

今年も、さらに協議会テーマに沿って次の三つを重点的に取り組みます。

1つめは、女性の部会のようなものをつくり、協議会への参加を進めます。

2つめは、部会が行う主な行事を地域の方に分かるように計画し、少しでも確実な行事を推進します。

3つめは、昨年度からの環境問題、高齢者問題を引き続き、皆で取り組めます。地域の皆さんのご協力をお願いします。

一号議案 平成二十年度事業報告と決算報告について  
事業報告に対しての質疑

河合勝嘉さん(清水町)より

福祉カルテについてですが、個人情報になるので、保管はどうなっているのか。

A 現在、まちづくり協議会の本部、つまり、市民センターに保管している。今後どのように運用していくかは本年度の課題でありますが、十分に気をつける。

決算報告に対しての質疑

池田正司さん(豊原町)より

○ 次年度への繰越金が六十三万円と多いのはどういうことか。

A 前年度の繰越金も多くあり、本年度は秋に草刈をして、市からの委託金の三十万円とか、実施する予定の講演会を行わなかったことによるものである。

○ 予備費十四万四千円は何に使ったのか。

A 「環境問題のできるところから運動」の家庭で貼っていただいたのシール代金に充てた。千五百枚の印刷代金である。少々単価は高かったが、それが予備費とほぼ同額であったので、それを充てた。

田上顕夫さん(豊原町)より

○ 二十八万円の委託金は草刈による収入で自主財源だと思ふ。これは、来年もあるのか。

A 田上さんの言われるようにこれは、市と交渉して草刈をしました。それが、来年もあるかどうかはなかなか難しい。

市からの除草業務を実施する場合は、たよりなどで地域の人に呼びかけ、協力していただく方を募集したい。

○ 健全育成環境部において十万円からの予算の余りは多過ぎる。計画はもう少しきちんとしてできないのか。

A 教育に関係する立派な方を講師に考えていた。しかし、PTAの人たちの動員が多くなるとい日程的なことや、中学校の講演会で講師がこちらの希望している方と重なったので実施しなかった。今年は、費用のかかる講演会ではなく、気軽に参加していただける講演会を予定している。

二号議案 二十一年度事業計画と予算案について

○ 事業計画に対しての質疑

杉本周介さん(豊原町)より

○ 住民意識調査より住民の希望は、高齢者対策、防犯対策、防災対策が圧倒的に多かった。しかし、本年度の予算を見ると、昨年と変わっていない。これではないのか。

A 杉本さんの言われるとおり、このところがある。なかなか、問題に対して的確に予算をとり、それに合った対策を取るといことは、今のまちづくり協議会の現状から見ると難しい。予算を充ててしっかりした対策までできにくい。今やっているプロジェクトの高齢者対策や合同防災の訓練、それに、地域パトロールなどの継続・充実が一杯のところである。良いご意見があれば、是非、協議会(市民センター)までご連絡をいただきたい。

○ 女性の皆さんに協議会への参加を呼び掛けるとあるが、実際にどのようにしてやるのか。また、できるのか。

A どこまでできるのかこちらも大変不安である。今、部会もどのようなことはでき、どのようなことはできにくいかがよく分かってきた。何とか活性化をしたいと考えている。しかし、ここでは、いろいろあつてみるとしか言えない。女性の持つ男性とは違った特性を生かし、粘り強く取り組んでいただき、新風を吹き込んでいただきたい。できたなら、女性の部会を作っていたら、女性の部会ではないだろうか。また、今ある部会にも加わっていただき、女性の発想を十分生かしてもらいたい。

天野加津美さん(みどり苑)より

○ 女性の皆さんに協議会への参加を呼び掛けるとあるが、実際にどのようにしてやるのか。また、できるのか。

二号議案 二十一年度事業計画と予算案について

○ 事業計画に対しての質疑

杉本周介さん(豊原町)より

○ 住民意識調査より住民の希望は、高齢者対策、防犯対策、防災対策が圧倒的に多かった。しかし、本年度の予算を見ると、昨年と変わっていない。これではないのか。

A 杉本さんの言われるとおり、このところがある。なかなか、問題に対して的確に予算をとり、それに合った対策を取るといことは、今のまちづくり協議会の現状から見ると難しい。予算を充ててしっかりした対策までできにくい。今やっているプロジェクトの高齢者対策や合同防災の訓練、それに、地域パトロールなどの継続・充実が一杯のところである。良いご意見があれば、是非、協議会(市民センター)までご連絡をいただきたい。

近藤義信さん(みどり苑)より

○ 本年度の予算もそうであるが、余ったものを全て次年度の予算としてこれからも組むのか。また、市からの交付金がなくなればどうするのか。

A 昨年の実績に基づいて予算を決定している。そういうことから行事を大きく変更したという以外大幅に予算が残るということはないはずである。

市からの交付金であるが今、どうのこうのと明言することは難しい。なければ、無いうにやるしかない。

予算の組み方が、どうも粗いのではないかとのお考えだと思いが、言われることは大変よく分かります。

しかし、協議会の現状はなかなか、計画どおりにはいっていないところも多い。予算どおりに実行したり、事業計画をきちんとして立てて予算を要求するというようにはなっていないということである。できるだけ皆さんの期待にそえるように努力はしているが、難しいところである。今後ともご期待にそえるよう努力したい。

質疑が終了し、一号、二号議案は採択されました。この後、表彰式が行われました。

平成21年度 掃水まちづくり協議会事業計画

本年度の重点的な取り組み

- 1、女性の皆さんに組織への参加を呼び掛け、女性の視点から魅力ある行事を推進する。
- 2、部会活動を計画的に、着実に進める。
- 3、環境問題「できるところから運動」、高齢者問題「高齢者カルテやマップ」の取組を一層推進する。

	担当部局	実施時期	部会の主な事業
1	地域振興部	通年夏	(たよりの発行)、(ホームページの立上げ) ・夏まつりの実施、キッズふれあい
2	公民館活動部	春・秋	・スポーツ大会の実施 ・郷土の歴史文化とのふれあい活動(ふれあいウォーキング)、(凧あげ大会の開催) ・芸能・文化事業の実施
3	老人会活動部	通年	・環境美化事業の実施 ・子どもとのふれあい事業の実施 ・スポーツ大会の実施
4	保健福祉部	春・秋	・親子のふれあい活動の実施
5	安全防災部	秋通年	・掃水地区合同防災訓練の実施 ・地域の防犯パトロールの実施
6	青少年育成環境部	通年	・あいさつ運動の実施 ・地域の環境美化運動の実施
7	産業振興部	通年	・環境問題への取組(クリーン作戦等)
8	高齢者問題プロジェクト	高齢者問題	高齢者問題では、「福祉・防災カルテ」と「対象者のマップ」を作成した。今後は、対象者に対する見守り者の専任を定める。
		環境問題	環境問題では、できるところから運動のシールを作成し各家庭に配布。玄関等の外から見える所に貼って、目的に対する意識の達成の度合いを認識。

被表彰者とその表彰内容

一、松阪地区交通安全協会榎田支部様

現在、地区指導員二十六名、女性部指導員六名の計三十二名により成り立っています。毎月

の交通安全の日の交通指導と春・夏・秋・冬の全国交通安全運動期間中の交通指導を実施していただいています。また、地域の交通安全に大きく貢献されています。代表として交通安全協会の榎田支部長鈴木則男様に受け取っていただきました。

二、松村三夫様(山添町)

松村三夫様は、松阪市体育委員榎田地区会長として四年、榎田地区本部役員として九年、地区体育委員として十三年、延べ二十六年の長きにわたって、地域の体育活動に貢献されました。

この後、松阪市資源循環推進課の

平成21年度 掃水まちづくり協議会予算

収入の部			支出の部		
項目	予算額	備考	項目	予算額	備考
前年度繰越金	627,744		事業費	740,000	地域振興部
松阪市交付金	857,000			180,000	公民館活動部
				30,000	老人会活動部
自治連合会補助金	650,000	榎田地区自治連合会		30,000	保健福祉部
				170,000	安全防災部
				60,000	青少年育成環境部
			80,000	産業振興部	
			事務費	730,000	手当・総会経費・旅費・機器借用・保険・見舞・弔慰・消耗品
			予備費	114,744	
合計	2,134,744		合計	2,134,744	

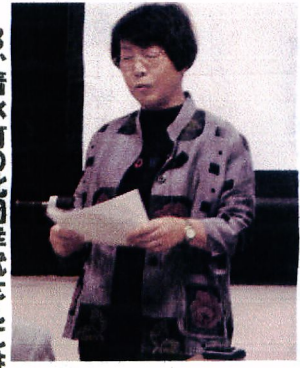
三人による体験発表

1、豊原町の小学生安部舞佳

さんの「あいさつ運動」について発表がありました。以下に全文を掲載しましたので、一読ください。

皆さんにより、「ごみ減量と分別回収」についての講演会が四時十分ころまでありまして、この内容については次回のおたよりで概要をお知らせいたします。

2、豊原町の松尾まつさんには「水切りにする」「減量」について、お話ししていただきました。



松尾まつさん

3、清水町の北岡幸代さんには「大家族と生ゴミ処理」について、お話ししていただきました。



北岡幸代さん

全てが終了したのは四時四十分。参加していただきました皆さんありがとうございます。

体験発表

豊原町 六年生 安保 舞佳

「あいさつ運動」について

私のおばあちゃんは、山添に住んでいます。小さい頃から一緒に歩いていると、近所の人を見かけたら必ず、「舞佳、おはようございますは、？」とか、「舞

佳、畑にいるおじさんに、『今日は。』って言うておいで。」とか、人に会うたびに言うてききます。

はじめは、「あのおじさん、こっちを見てないやんか。」とか、「あいさつをしても聞こえやんそうやんか。」と言って、おばあちゃんによく文句を言いました。

お母さんと一緒に買い物に行った時も、知り合いの人に会ってあいさつをしないと、「何で『今日は。』って言わんだん。」って、怒られたこともありました。私が、「あいさつをしたよ。」

って言うても、「声が小さくてお母さんにも聞こえやんってこと」は、相手の人にも聞こえてないらんやわ。」と、言うてやっぱ怒られました。

学校でもあいさつ運動が始まって、あいさつは大きな声で言うことを学びました。でも、大きな声であいさつをするだけでは、相手の人も返してくれないことがあります。お母さんに「あいさつをしても返してくれやん人がおるであいさつをしたくない。」って言うとお母さんは「相手の人にあいさつを返してもらうには、目を見て言うてみな。それでも返してくれやん人には頭を下げな。」と、教えてくれました。だから、私は、必ず、人にあつたら、目を見てあいさつ

をしたり頭を下げてあいさつをしたりするようにしています。友達の中で、あいさつのできな人は、きっと何かであいさつを返してもらえなくて恥ずかしい経験をしたのだと思います。



安保舞佳さん

でも、やっぱ私も恥ずかしいなと思うこともあるけれど、あいさつをした後は気分がいいし、あいさつをしなかつた時は、「あいさつをしたらよかつたなあ。」と、後悔をすることがあります。だから、私は、なるべく多くの人とあいさつをしていこうと思っています。

今、掃水小学校の地域では「できるところから運動」に取り組んでいます。私の家では、「できるところから運動」が発表されてすぐにお母さんは、あいさつのことだけに四葉のクローバーのシールをはるのでなく、シールをまとめて四つはつてしまいました。ゴミの量を減らすのになんだかんだと言って努力しますが、あまり減っているように思いません。そして、スーパ

ーのレジ袋が有料化になったときも、「レジ袋がなかったらゴミ袋がなくなるで困るわ」って言うていました。でも、最近になって少し変わってきました。エコバックを忘れないようにかばんの中や自動車の中に何個か持つようになりました。資源ゴミでも、お母さんは分別表を見て、「面倒やなあ。」と言いながら、お父さんや私と一緒に分けて分別をするようになりました。「できるところから運動」をきちんとすることは大変だなと思いました。

掃水まちづくり協議会

第四回総会に参加して

豊原町

第十二町内会長 佐伯智子

に乏しく、難しいとは思いますが説得力に欠けていました。ですから、口から伝えようがなく、ただ出席した私を知っていると、言ったところでしょうか。昨年度の防災カルテ、福祉カルテ作成等々を手作業で本当にお疲れさまでした。紙面での宣伝も大事ですが、人は足もあり、手もあり、口もあります。もつと、人々を動かすことを考えればどうでしょうか。PTAの中で、仕事をしながら参加している父母。・ 趣味で楽しんでいる男女。・ 介護で日々を過ごす男女。・ 孫の世話で過ごす男女。・ ひ孫の成長を眺め、目を細める老男・老女ほか、いろいろあると思います。

住めば都、皆が愛しくこの土地を慕い、最後の住み易さを大きな声で伝えられたら、どんなにいいでしょうか。でも、第四回の掃水まちづくり協議会の総会の日、私の町内で五分の一弱の出席率では、何となく少し寂しかったです。それは、一年、一年高齢化が進み、不安の増す中、もつと参加したくなるよう見直しが大切かも知れません。また、総会では、協議会への女性参加に力点を置くこともおっしゃってましたが、少々具体性

個々の集団づくりから、掃水まちづくりへと繋げるようにできないでしょうか。私たちの町内は、検討することで委員の所属の見直しに納得し、一人ひとりが掃水まちづくりに興味を持ち、自発的に活動の場を見出せるのではと思います。兎に角、一人でも多く、掃水まちづくり協議会の反映を強く望みます。社会の先輩方がよい老後を一日でも多く過ごせるために。